

ウェルウォーク通信

～横浜市総合リハビリテーションセンター様の運用紹介～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。
今回は、横浜市総合リハビリテーションセンター様の取り組みについてご紹介致します。

社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター

【所在地】神奈川県横浜市港北区

【特 色】脳卒中による片麻痺や高次脳機能障害、脊髄損傷、脳性麻痺や自閉症などの発達障害など、専門的かつ総合的なリハビリテーションサービスを提供。通院・通所によるリハビリが主。

【診療所内入院病床数】19床 【成人担当PT】4名

【ウェルウォーク運用状況】

2018年4月に運用開始、経験症例数 142名（2022年1月現在）



ウェルウォーク訓練の対象者・運用

対 象：生活期の脳血管疾患が主
診療所としての通所施設だが、毎日訓練を実施できる入院・入所者に実施
目 的：歩行介助量の軽減、介助なしで歩ける患者の更なる歩行能力向上
頻 度：入院・入所時の初期に1回20分、週5日、2週間以上

症例検討会

頻 度：月に1回
参加者：医師、PT、看護師、工学技士など
内 容：ウェルウォーク訓練前後の歩行変化の報告
その後の歩行訓練の方針検討
素 材：平地歩行動画、ウェルウォーク歩行動画
身体機能評価、歩行解析データ

病棟歩行練習に関わる看護師や床反力などのデータ計測・分析に関わる工学技士も参加！

【ウェルウォーク訓練の実績紹介】 入院・入所のウェルウォークを約2週間、使用した片麻痺の変化

対 象 例数：10例 平均年齢：52歳（全例男性） 発症からの平均期間：457日
Brunnstrom Recovery Stage：下肢Ⅲ 6例、Ⅳ 4例 FIM 歩行：5点以上

WW練習の日数 12 ± 2.3日（10～17日）

WW練習の傾向 練習初期は努力性に歩行する患者が多いため、手すりを使用させ、速度は快適歩行の7割程度、アシスト多めにして安心して支えられる、楽に振り出せるという体験をさせることから始める。麻痺側荷重の促しやFB機能による患者自身への意識づけを繰り返し、徐々にアシストを減弱、速度上昇、トレッドミル杖へ変更するが多い。

WW練習の効果 歩行速度の向上率：快適 22.6 ± 15.4%、最大 22.3 ± 19.1%
最大一步の向上率*：麻痺側先行 30.7%、非麻痺側先行 47.5%
平均最大荷重量の変化：76.1 ± 11.7% → 91.9 ± 14.1%

*静止立位から、上肢支持なしで、下肢を前方に大きく一歩踏み出し、もう一方の下肢を踏み出した足部に揃える際の、スタート位置から後ろ足までの距離

ウェルウォークリーダーのコメント

入院・入所した生活期の患者に、なるべく初期の段階で、歩行機能向上のきっかけとなるようにウェルウォーク訓練を実施しています。ロボットなしでも歩ける患者の場合、アシスト機能以上にFB機能を用いて成功体験を実感させることが、患者が本来持っている能力を引き出すことにつながる印象です。今後は、効果が出やすい練習方法や患者の特性などを探っていきたいと考えています。

ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。

WW 臨床・運用相談窓口<clinical-ww@mail.toyota.co.jp>